

活動報告書

報告者氏名:川人弘幸

所属:神戸市立青陽西養護学校

記録日: 2014 年 2 月 13 日

【対象児(群)の情報】

・学年

高等部第 1 学年 A

・障害名

知的障害(療育手帳 B2) 広汎性発達障害

・障害と困難の内容

(学習面)

【聞く】ことと【話す】ことについて問題は見られない。

【読む】ことに関しては、ひらがな、カタカナは読むことができるが、漢字については「はじめて出てきた語や、普段あまり使わない語句は読めない、または読み間違える」また、漢字でつまづくため「音読が遅い」「文章の要点を正しく読みとることが難しい」

【書く】ことに関しては、ひらがな、カタカナは書くことができるが、漢字は小学校 2 年生程度までの習得にとどまっている。また、「読みにくい字を書く」「独特の筆順で書く」「漢字の細かい部分を書き間違える」

【計算力】について加減は繰り上がり、繰り下がり計算ができるが、乗除の計算及び四則混合の計算については九九の習得ができていないため難しい。また、「文章題を解くのが難しい」

【推論】については「事物の因果関係を理解」でき、比喩などを用いて「順序立てて自分の考えを話すこと」を得意とするなど問題は見られない。日常生活において、時計を見取ること、実際の買い物でのお金の計算は問題なくできる。

(行動面・情緒面)

優しい性格で、何でも自分でやろうとする。会話は普通にでき、言葉もよく知っている。初めての人や場所には、慎重に様子を見ながらであるが、集団参加には問題ない。何か行動を起こすときには必ず事前にリサーチして確認し、前もって、ある程度、イメージできないと不安になる。間違い、失敗を嫌う。自分の思いが伝えきれていないのではという思いと共に、相手の気持ちを気にし過ぎて、それがストレスになることがある。

【活動目的】

・当初のねらい

○A の凹面である学習活動での読み書きや計算などに、ios 端末を活用することで「学習に対するアクセスのしやすさ」＝アクセシビリティを担保すること。

□音楽をはじめとする A の創造性豊かな凸面を ios 端末を活用してより伸ばすこと。

以上の2項目をもって、A の笑顔を増やし、自信をつけることをねらいとした。

・実施期間

平成25年 4 月から平成26年3月

・実施者

川人弘幸、神園麻里、手嶋邦彦

・実施者と対象児の関係

担任

【活動内容と対象児(群)の変化】

・対象児(群)の事前の状況

対象生徒は入学当初から自分の iPhone5 を持っており、ゲームをしたり、「YouTube」で動画を見たり、音楽を聞いたり、「LINE」で友達とメールをしたりと、自分なりの使い方をして楽しむことができた。当然、言葉を iPhone が提示する変換候補の中から選んでいくこともできた。しかし、最初 A は iPhone や iPad の基本的で素晴らしいアクセシビリティ機能については、ほとんど知らずに設定もすべてオフのまま自分の iPhone を使用していた。

・活動の具体的内容

☆A の凹を補うフィッティング

月曜から木曜まで教科学習の授業が実施されているが、他の生徒も含めて、学習グループ全体ができること、分かること、自信を持つことを優先して教材が作成されている。それでも、A が苦手とする「読み」、「書き」、「計算」について分からないことは、iPad の活用をすすめた。



①ニュースの読み取りに関しては、iPad のアクセシビリティ機能のうちの「文章読み上げ機能」の活用を奨励した。また、その書き取りに関しては、これもアクセシビリティ機能のズーム機能の活用を促した。



②「漢字」の書き取りに関しては、難しいときには、デフォルトの「メモ」アプリを使って変換候補を提示させる活用法を奨励した。

③文章作成に関しては、音声入力で文章作成を行うアプリ

「Dragon Dictation」の活用を促した。



④数の学習の時間に、計算が難しいときにはアプリ「計算機」の活用を奨励した。

⑤ALT の教職員が中心となる、読み書きにあまりとらわれない、ゲーム形式中心の楽しい雰囲気のある英語の授業では、理解を一層深めるために、日本語から英語への翻訳・発音・拡大表示を手軽にしてくれるアプリ「Google 翻訳」の活用を促した。

□A の凸を伸ばすフィッティング

⑥「iPad で作曲ができた!」



アプリ GarageBand

A は、以前から休み時間にピアノやキーボードを両手を使って好んで弾いていた。なかなかの腕前に感心して聞くと、楽譜も読めず、誰に習ったわけでもないが、我流で弾いているとのこと。耳に入ってくる音を頼りにゲーム音楽や CM 音楽、クラシック音楽の一部まで完全な再現とまではいかないが、根気強く音を探しながら練習していた。そこで、私自身もよく使い方が分からなかった GarageBand を紹介すると、ゲーム機器を扱うような要領で、あっという間に作曲を始めてしまった。



(ほら、この通り。MIDI でキーボードと接続して↑)

⑦iPadで「読む楽しみ」に目覚める!

アプリ 朗読少女



A がとても想像力豊かな思考力をもっており、なおかつ聴覚的に非常に秀でた部分があると感じたため、合成音声でない朗読アプリがフィットするのではと考えた。また、Aも含めた数名の生徒たちはヤマハの VOCALOIDO (これ自体は音声合成アプリであるが) のバーチャルアイドル・キャラクターである初音ミクにとっても親近感を持っていることも事前の情報として知っていた。それで、すすめたアプリが朗読少女である。初音ミクではないが、バーチャルアイドル・乙葉しおりとのコミュニケーションをミックスさせた朗読アプリである。声優の「ささきのぞみ」さんの朗読は、とても見事なもので心地よく聞くことができる。書籍のラインナップは、主に青空文庫から少しずつ増やしていっているようで、いわゆる古典文学中心である。製造元のオトバンクは、もともと視覚障がい者のための製品から出発しているため、作りこみがしっかりしている。個別学習の短い時間から活用を開始した。



・対象児(群)の事後の変化

- ◎自ら ios 端末のアクセシビリティを研究して使いこなそうと努力するようになった。
- 学校で学んだ ios 端末のアクセシビリティを家族にも伝達講習して感謝されている。
- 「自分は頭が悪いのではない」という発言が聞かれるようになった。
- ◎授業で自発的に挙手して発表する頻度が増えた。
- ◎音楽の授業を担当する K 担任と「次の授業までに 16 小節の曲、ひとつ作ってきて。みんなで合奏するから」「先生、メトロノーム 100 でいいんですか?」「そうそう、歩く速度で」などと報告者にはもう分からない会話。でも、音楽の授業は大いに盛り上がり、A は今では「青陽西の坂本龍一」と呼ばれ、はにかんでいる。
- オー・ヘンリーの「最後の一片」を読んで、感想を録音した際に、そのユニークな視点の感想から、「君、すごいね!」と報告者が心から感心してほめた。すると、A は「でも、この本、大したことないでしょ?だから、感想言えたんですよ」と答えるので、「オー・ヘンリーは今から 100 年前のアメリカの作家で短編小説の名手。オー・ヘンリー賞なんていうのもあって、ノーベル賞とってても不思議じゃない文学やで」と教えた。すると、A は驚きとともに、そんな文学と言われるような本も読んだという満足感も湧いたようだった。重ねてほめると、とても照れていた。
- ios 端末と MIDI 接続できるキーボードをお年玉で買った。ギターなど、他の楽器への興味も深めている。
- 「卒業までに、いったい何冊読めるかな」「どれだけ感想をためることができるかな」と話している。

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

ios 端末のアクセシビリティを活用することで A の学習活動に対する苦手意識は大きく軽減した。

「iPad で作曲ができた!」+iPad で「読む楽しみ」に目覚める!

できることや楽しみが増えることは A の **自信**

支援者や友達からの賞賛

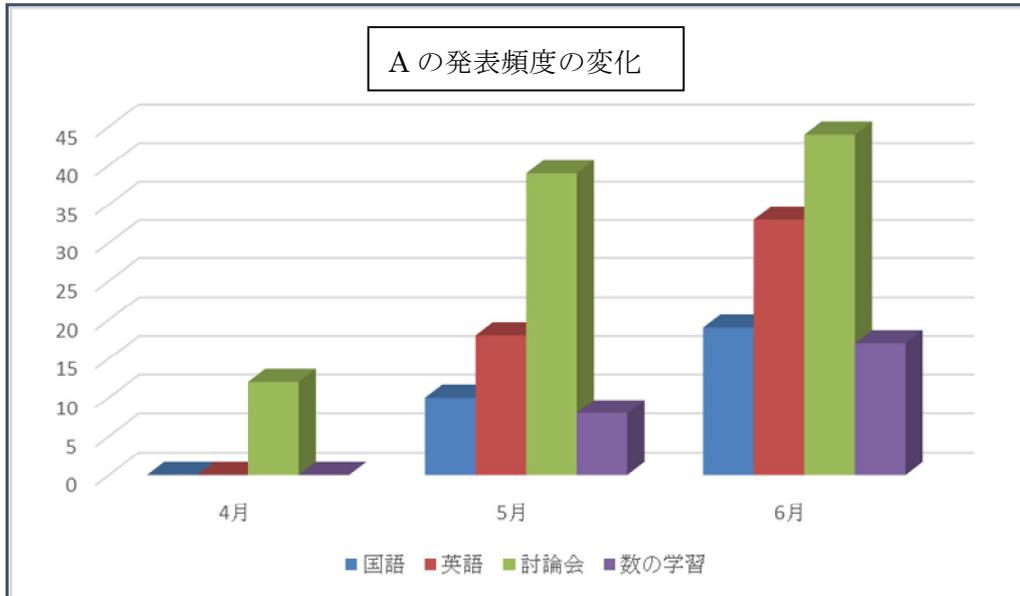
そして **笑顔** (自己肯定感の向上)

もっと、作曲しよう!もっと読んでみよう!の良い循環にある。

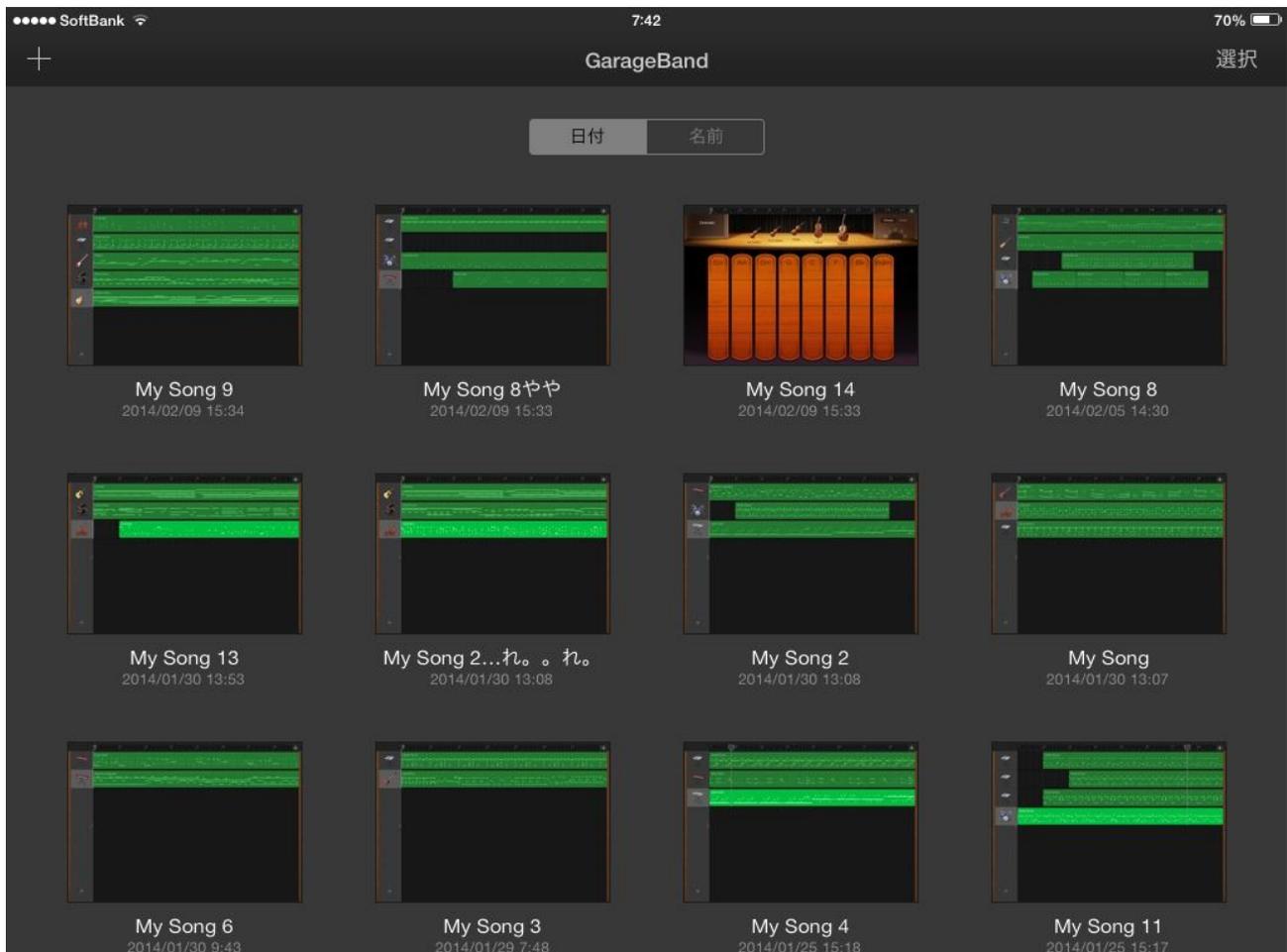
他のことにもチャレンジしたい。

・エビデンス(具体的数値など)

◎自ら挙手して発表する場面もよく見られるようになった。下は 4-6 月の A が挙手して発表しようとした回数をカウントしたグラフである。月曜日=ニュース発表/国語 火曜日=英語 水曜日=理科/社会及び討論会(インシデントプロセス法に近い形式。A はこの授業を一番楽しみにしている) 木曜日=数の学習/個別学習
※金曜日はキャリアトレーニングで教科学習の授業はない。



◎2014 年になってからも、下の iPad 画面キャプチャーのように、GarageBand ですでに 12 曲以上の作曲を行っている。



◎「朗読少女」で読んだ書籍について、感想をボイスメモで録ることにした。最初、A はとても緊張していたので、下・左側のボイスメモの一番下、1/23 の最初の録音は「私（報告者）について自由に感想」というテーマで 30 秒、録音した。続いて、同日、読んだ書籍のうち、芥川龍之介の『蜘蛛の糸』について感想を録音した。「30 秒程度で良い」という指示を出していたが、A は 1 分 4 秒感想を話した。次に 2/13 には、オー・ヘンリーの『最後の一葉』について感想を録音した。A は 4 分 18 秒感想を話した。



最後の一葉 B
2014/02/13 0:01:16

最後の一葉 A
2014/02/13 0:04:18

蜘蛛 B
2014/01/23 0:00:32

蜘蛛 A
2014/01/23 0:01:04

蜘蛛 C
2014/01/23 0:00:35

B
2014/01/23 0:00:31

A
2014/01/23 0:00:30

— —



【蜘蛛の糸】

『蜘蛛の糸』で天国から地獄を見下ろした神様みたいな人。(お釈迦さんやね) そう、お釈迦さんが、地獄におった悪を、一度だけ虫を助けたことがあるということで、天国にある特別な糸、蜘蛛の糸を垂らすというシーンがあるんですけど。垂らすというけど、蜘蛛一匹助けただけなんですよね。

正直、僕の感想から言わせてもらえば、今まで、その人は何十人も人を殺してきたわけなんですけど、蜘蛛一匹で、そんな天国に行けるようなんでいいのかなと。俺は、神様の考えが、それで正しいのかなって。それで天国行って、またいらんことしたら地獄に落とすんでしょ。だったら、最初から下にいた方がいいんじゃないかなと。

それより神様なんだから、そのぐらいは先を考えた方がいいんじゃないかなと僕は思いました。

【最後の葉】

最初の主人公である病気になる少女かな。(うん) 設定では、窓から見える葉っぱが一枚一枚散っていくと、最後の一枚が散ると自分の命も散るという設定なんですけど。僕的には、それは気持ちの思いようかなと。生きようと思えば…まあ、こんな時代ですから医療も発達していないわけなんですけど。(そうやね、100年ぐらい前かな) そうですよ、なんか設定がそんな感じ。

で、ご近所さんに、もう一人病気のおじいさんがおると。で、その人は画家っていう設定で、最後は、窓から見える煉瓦の家の蔦の葉っぱが一枚一枚落ちていくと、少女が死んでいくっていうんですけど、その近所の画家のおじいさんが最後の一枚の葉の絵を描いて散ってないように見せるっていう設定なんですけど、僕的にですけど、途中で一枚一枚葉っぱを少女が数えるシーンがあんですよ。(うん) そのときに枚数が分かってるから、普通分かると思うんですよ。「あれっ、一枚増えてる」ってなるはずなんですけどね。

その描いた画家のおじいさんも、そんなものは迷信やと。そんなふうを考えてたら死ぬとか、そんなことは関係ないと言いながらも、自分も同じ病気で亡くなりになったんですけど。と言いつつも葉っぱの絵をもう最初に描いちゃってるんですよ。(うん、うん) それで、僕は、葉っぱの絵を信じていないと言いながら、そのおじいさんが亡くなるという、その亡くなったときの最後の絵が葉っぱだったらいいんですけど、僕的には、自分が死ぬ前に絵を描いて女の子を救って、すごいイケメンなことを。(そやね、イケメンやね) だから、僕は、それは、すごい、人に文句は言いつつもやることはやりましたし、画家として最後は人の命も救ってましたし。(うん) で、最後の死に方がもう、すごいかっこよかったなと思いますね。

(あー、かっこいい)

女の子も一応、絵を描くのが好きという設定らしくて、どこか海の街の絵を描きたいと言ってて、で、その前に死ぬって話をしてて、で、さっきのおじいさんが絵、描いたんを、一枚散らない言うて、で、自分は何とかその病気も治って。でも、結果論としては、最後に描いた? あっ、ナポリ湾を描きたいって言ってたんですけど。(うん、ナポリ湾ね) そのナポリ湾を描いたって結果も出ていないんですよ。その女の子が描いた。(なるほどね) だから、結果、描けてるのか描けてないのか、そのへんが僕は気になりました。(うん、ナポリいうたらイタリアやし、これアメリカの小説やもんね) でしょ。しかも、この時代、ぎりぎり列車があるかないかやし、行こ思たらそりゃ何年もかかるでしょうし、その間にももしかしたら死んでた設定もあるかも知れませんよね。(あー、そこまで君は考えたんやね、いろいろ) 暗い最後ですけど。(深く読んでますねえ)

で、『最後の葉』って言ってますけど、確かに一葉だけ残ってますけど「絵」なんで一葉ではないと思うんですよ。絵は葉っぱの絵ですけど。(あー、題名のネーミングに関してやね。もうちょっとひねって欲しかったと) うーん、そうなんですよね。

それと、この少女のストーリーと、あと1人、近所の絵を描いた老人のストーリーもあれば見たいかなと僕は思いました。(絵を描いたおじいさんの、もうちょっと幅広い人生のストーリー?) 気持ちの、どう思ってたかに関してなんかの別のストーリー。(もうちょっと、書きこんで欲しかったと?) 欲しかったです。(すごいね。オー・ヘンリーに「もうちょっと厚みがあるだろう」という意見やね?) ともおもしろい話ではありましたが。(はい。分かりました) はい。(立派な感想だと思います) ありがとうございます。

・その他エピソード(写真なども含めて)

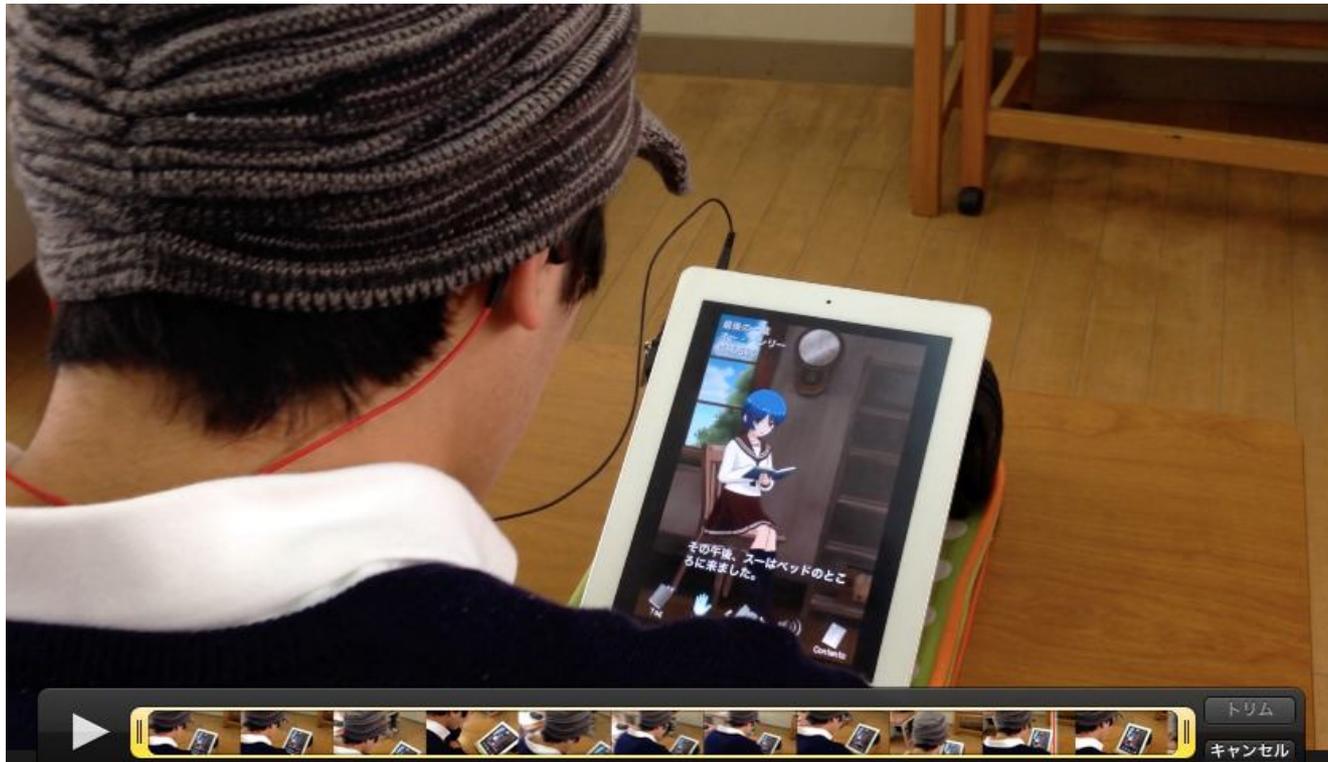
□A が、市内教職員向けの iPad 活用ビデオプレゼンテーション (GarageBand) に主演、緊張していたが、見事な解説、ワンテイク OK!



○音楽の授業で、A が GarageBand で作曲した曲を iPad からアンプ内蔵スピーカーで外部出力しながら、みんなで合奏を楽しんでいる様子、**背中をこちらに向けているのが A。**



○個別学習タイムに、iPad にイヤホンを挿して「朗読少女」で、オー・ヘンリーの『最後の葉』を読んでいる A。



○国語の授業で、「朗読少女」を iPad からプロジェクター出力して、太宰治の『走れメロス』を題材に学習する A とクラスメイト。ストップや巻き戻し機能を使いながら、みんなで、場面、場面を振り返り話し合いながら学習を進める。A は写真左前列、手元の自分の iPad でも、朗読少女のメロスを確認しながら学習している。



・今後に向けて

A の益々の笑顔と自信の増進に向けて、凸凹の両面からの合理的配慮を踏まえた研究、実践を大切にしていきたい。